

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 3 No 7

24号

平成7年 7月 1日

お父さんの役割

院長


今回は、子育てにおけるお父さんの役割について考えてみましょう。最近子育て支援という言葉が耳にします。少産化の時代となり、核家族化が進み子育ての情報も十分ではありません。そのため行政その他による支援が求められています。その中でもっとも大切なのは、お父さん(ご主人)の支援かもしれません。

しかし、ここで言いたいのは、“お父さんも積極的に子育てに参加しましょう”ではありません。確かに外来を見ていると、昔と比べると、お父さんの姿も多くなっています。時には、よくお父さんが連れくる子もいます。しかし多くは、休みの土曜日に連れてくることになりま。しかしお父さんに聞いても、どんな症状が何時からかさっぱり把握していないこともあります。これは、子育てに参加していると言っているのでしょうか。これでは、むしろお父さんは、ただの足だけなのです。

お父さんはいつも社会の荒波にもまれ、大変な思いをしながら仕事をしています。朝早くから、よる遅くまで、身を粉にして働き続けています。そんなお父さん達が、子育てまで協力するという事はほとんど不可能です。男性の育児休暇が取れる人は、果たしてどれだけいるでしょうか。先日テレビで、北欧の育児休暇の話がでていました。50週間後取れ、そのうち最低4週は男性が取らなければならないようです。取材に応じた人は、お母さんが政治家のため、育児休暇は12週で残りは全部ご主人がとり、もちろん給料は80%程度はもらえるということです。こんなことは、もちろん日本では不可能のことです。やはり、ただの足だけにしかならないのでしょうか。

子育ての支援のなかでもっとも大切なものは、精神的なものと考えています。小児科医も、その一部をになっていることは当然です。小児科医の大切な役割のひとつは、お母さんに安心を与えることです。当院でも新聞や説明を通して、お母さんが安心を持って帰れるように努めています。

栄養育児相談
7月5、19日(水)
13:30から 栄養士担当。参加希望の方は受付まで。当日でも可です。
午後休診
7月8日(土)は、
教育委員会出張(歌津町)のため
15:00までの診療とします。ご注意ください。



す。でも時間的には、短いものです。1日点滴をして病院にいる間や電話の問い合わせでも与えられるかもしれませんが、でもそこまでは、夜が更けるに連れ、不安が増してくるのは当然のことです。そこでは何の役にもたちません。こんな時支えられるのは、誰でしょう。



“育児で困ったときまず第一に相談する人は?”というアンケートの結果の第1位は、お父さんです。やはり奥さんが頼りにしているのは、ご主人なのです。主婦業を仕事に換算すると、いくらになるという話題があります。逆に言えば、それだけ認められていないのです。お母さんの子育てを仕事に換算するといくらになるのでしょうか。これを読んでいるお父さん、まさか子育てでお母さんが苦勞するのは当たり前などと思っているのではないでしょうね。

お父さん達に、“お母さんの代わりに子育てをしない”という気持は、毛頭ありません。まず最初は、母親の苦勞というものを認めてあげてください。そしてそれを評価してあげてください。それは精神的なもので結構です。何日もお子さんの熱が続き、お母さんが看病し病気が直ったら一言“ご苦勞さん、おまえのおかげだよ”と言ってあげてください。小生が外来で“お母さんががんばったからだよ”と言わないですむように。

今回は、こんなを書いてみました。読んだお父さん達の感想を待っています。

お知らせ 予防接種について

小学1~2年生(生後90ヶ月)の風疹予防接種の予診表及び無料券は当院の窓口で渡します。(申し訳ありません。掲示に誤りがありました)中学生も年間を通して受けることができるようになりました。

7月から、予防接種ワクチンの値上がりに伴い、接種料金が上がります。詳しくは後ほど掲示します。

臨時休診について

7月20日(木)は、従業員慰安のため、臨時休診とします。ご協力お願い致します。

読者の広場

今月も投書有難うございました。投書を7通とお葉書を1通頂きました。たまたま、以前通っていた患者さんからおはがきを頂きましたので、ご紹介いたします。

前略

先生をはじめ、病院の皆さま、お忙しい毎日をお過ごしのことと思います。わが家の長男太郎は、2年近くお世話になったのではないかとありますが、出産のため実家へ戻っているうちに、主人が転職になりまして、仙台へは帰ることなく青森の方で家族4人の生活を始めることになりました。先生にはとても感謝しております。いろいろな心配に対して、とてもわかりやすくやさしく説明して下さい、心配のしすぎに反省したり。先生だけでなく看護婦さん、受付の方、皆さんがやさしい病院ってなかなかいいこと、こちらに来てわかりました。本当にお世話様でした。ありがとうございました。これからもお体に気を付けて、お仕事がんばって下さい。またおめにかかれることを楽しみにしております。それでは、お元気で。かしこ

P.S3月に、女の子を出産しました。名前は花子です。太郎生は、この春まだ風邪をひかずに、やさしいお兄ちゃんをしています。
(太郎君花子ちゃんのお母さんから頂いた葉書です。)

投書で目についたのは、待合室のことです。しばらく混雑し、待ち時間が多く、ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。授乳室についても、2つの意見があり“点滴を授乳室ではいかがでしょう”と“母乳のために、乳児室を使わせて”ということでした。確かに点滴のこどもが多い場合は、どちらも気を使うものです。しかしスペースには限界があります。最近、従業員の好意により、休憩室も使っています。お互いの立場を考えながら、やっていくしかないのかもしれませんが。テレビの件ですが、最大は事故防止です。そのためわざわざ、壁を凹ませ、後に入れなくしています。低い位置に、設置しているのも、転倒防止のためです。

6/24

今日はすごく込み合っていて、足の踏み場のないくらい、待合室はすごい状態でした。でも、みんな待っている...。おもちゃや本を見て。しかし帰るとき、全くかたずけて行かない親と子どもたち。人は帰って、ちらかったおもちゃと本...。私ももう一人のお母さんと片付けました。たのしく、美しく、きれいに利用しましょう。看護婦さんも、お医者さんも疲れています。

御協力、おねがいします。!!
大樹の母より
こちらのことを考えてくれて、ありがとうございます。

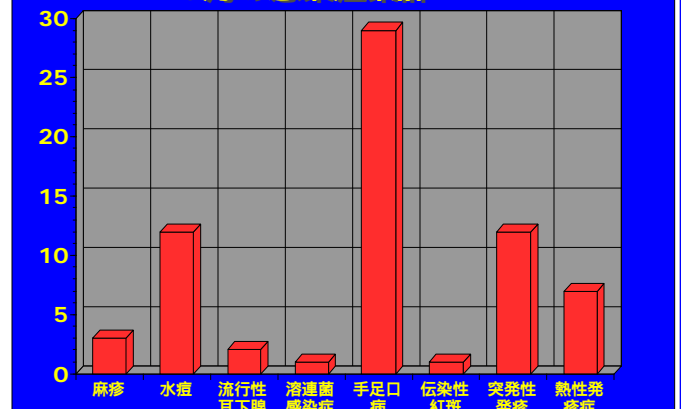


病気ひとくち知識

手足口病

原因は、コクサッキー、エンテロウイルス等である。潜伏期は3~7日で、飛沫感染により流行する。特徴は手足を中心とする発疹と口腔粘膜疹で、発疹は手足を中心に手掌(手のひら)や足底(足の裏)にも見られる。手掌や足底では、水疱を作ることが特徴である。口は、水疱性口内炎で痛みを伴う。乳幼児では、痛みのため哺乳食欲不振や不機嫌となることがある。他には微熱が見られ、15~20%に38~39度の発熱があり、多くは1~2日程度である。軽症では、発疹はもちろん口の痛み以外にほとんど症状はない。口腔粘膜疹のひどい例では、のどや口の中の痛みのため、水分摂取が不可能となることがある。経過は長くても1週間程度で、まれに無菌性髄膜炎を起こすことがある。根本的治療はなく、口の痛みに対して鎮痛剤やうがい薬を使用する。水分摂取が、不可能な場合には点滴となることがある。登園、登校に対する決まりはないが、出席停止の必要はないと考えられている。ウイルスは1種類ではないため、再び罹ることもある。

6月の感染症集計



重症な麻疹は、ほとんど見られなくなりました。替わって水痘が増加しています。予防接種した子にも出ていますが、軽くすんで熱もでません。手足口病が、幼稚園児を中心に流行しています。

季節のせいかわせこせこ、ゼーゼーする喘息性気管支炎が多く見られ、熱が4~5日続く風邪もあり要注意です。

編集後記

相変わらず、憂鬱な気候が続いています。なかなか咳が止らず、やきもきしているお母さんもいるはず。こんな気候は環境も悪く、喘息も悪化するぐらいです。もう少しで、夏の太陽です。時には我慢することが大切です。今は、開業以来の混雑で待ち時間も長く、ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。そこでひとつお願いです。いつもは、納得するまで説明しています。混雑しているときは、次の患者さんのことも考えてください。月、金、土の午前中は、特に混雑します。ご協力お願いします。投書を頂いた、拓真くんのお母さん、奨太くんのお母さん、おっばいちゃんのママ、マールくんのお母さん、武田さん、名なしのお母さん有難うございました。



目次に戻る

前の号

次の号